かわら版いわしろ

～集落支援員だより

「伝統ある祭りを次世代へつなぐことが自分達の役目。今年も全身全霊で熱く盛り上げます！」

来る十月十二・十三日、『小浜の紋付祭り』が開催されます。今年の四町の大世話人・取締の皆さんに祭りにかける思いや意気込み、紋付祭りの見所や魅力、課題や抱負などについて、お話をうかがいました。

▲大世話人・取締の８人。「ポーズを」と依頼すると「祭りのときは直立が基本です」との返事。祭りにかける真摯な姿勢がうかがえました。

Q．紋付祭りとは、皆さんにとってどんなものですか？

▲小浜の紋付祭り。羽織袴姿で町内を厳かに練り歩きます。

「正直、祭りは自分の体の一部。ずっと、そう思ってきました」という反町大世話人の佐久間さん。その言葉に他の皆さんも頷き、次のような発言が続きました。

「季節を感じさせるもの。金木犀の香りで祭りを連想し、気分が盛り上がるんです」「大事なもの。年をとる毎に楽しみ方が変わってくる」「祭りは祭り。それ以外に言い表せない唯一無二の存在」「祭りは人生のスパイス。普通に暮らしていたら味わえない体験ができる」「人としての礼儀や縦社会の勉強ができる」「祭りは感情を表す言葉。そこにすべてが含まれる」「秋になると恋しくなるものが祭り」…一人一人の言葉には、祭りへの情熱が感じられました。

続いて紋付祭りの魅力や見所について、大世話人の皆さんにベスト３を選んでいただきました。

★見所①：口上

「御神輿の宮入後、塩松神社下で一回、それから鳥居町の四ツ角でもう一回、口上があります。大世話人は今年で卒業と見られているので、どんな口上を言うのか楽しみにされています」

★見所②：四町の太鼓台が並ぶ所

「夜の見所は太鼓台が四町並んだところです。藤町の坂を上ぼり下りするところや、四ツ角に集合したところですね」

★見所③：昼は厳か＆夜は賑やか

「いまだに御神輿を人力で運んでいる点も見所の一つ。しかも静かに運行経路を運ぶのも珍しいです。昼は厳かな行列、夜は賑やかに盛り上がるのが、この祭りの特徴です」

Q．今後の課題や抱負は？

「一番は人材確保。文化を継承しないといけないが時代に合わせて変える必要もあり、すり合わせが難しい。若い世代との考え方のずれ、ギャップもあります（笑）」

紋付祭りは江戸時代に飢饉からの復興という願いから始まった伝統ある祭りで、今年で二百三十五年目にあたるそうです。「過去から受け継がれてきた祭りの伝統をまた一年、次の世代へつないでいく。それが私たちの役目です」。そう言い切る皆さんの表情はとても爽やかでした。

▲４町の太鼓台が並んだ様子は圧巻。

大世話人・取締に今年の祭りにかける 思いや意気込みを聞きました！

大世話人・取締の８人の皆さんに、今年の祭りにかける思いや意気込みをうかがいました。

■反町■

「今年度、反町は年番という４年に１度の重要な役目を任されています。今年も先輩たちに恥じないような祭りをしたいです」

▲向かって右が佐久間淳さん、左が渡辺大介さん。

▲向かって右が黒羽広行さん、左が大内弘貴さん。

■鳥居町■

「伝統ある祭りですが、若連会員も減少して大変な面もあります。藤町さん、反町さん、新町さんと協力して盛り上げていきたいです」

■藤町■

「ここ数年、台風とかコロナとか続いていましたが、段々それらも明けてきましたので、今年は明るく祭りを盛り上げていきたいです」

▲向かって右が渡邊賢太郎さん、左が菅野和志さん（中世話人）。

▲向かって左が橋本章さん、右が五十嵐幸雄さん。

■新町■

「令和の現代に自然災害、少子化、その他、色々な悩みを抱えている中で、このお祭りをすることで街の人たちに少しでも元気を与えられたらと思います」

※市ウエブサイトではカラー刷「かわら版」を掲載中です。「二本松市 集落支援員だより」と検索ください。

発行日　令和６年９月２４日　　集落支援員だより　　第７８号

～ごみの出し方講座⑧～

～市民の皆さんから寄せられた質問にお答えします～

Q．普段、飲んでいる錠剤の包装紙は燃やせるごみとプラスチックごみの混合ですが、きれいにはがすのは難しいので、捨てるときに悩んでしまいます。どちらに捨てるべきですか？

A．プラ マークが入っている場合は、プラスチック製容器包装（透明の袋）へ、プラ マークがない場合は、燃やせるごみ（黄色の袋）へ入れてください。

★ごみに関する質問を随時募集しています！★
ごみに関する質問を気軽にお寄せください。問合せは、岩代支所市民福祉係まで（☎６５－２８１４）

～合戦場の桜　樹勢回復プロジェクト関連レポート～

クラウドファンディング返礼品 書き下ろし絵画を展示しています♪

合戦場のしだれ桜樹勢回復プロジェクトの立ち上げから四カ月以上が経過しました。クラウドファンディング、募金箱、口座振込など、さまざまな形での支援が寄せられる中、画家のすげのでんじゅさんがクラウドファンディング返礼品として描いた絵画が完成しました。

▲岩代支所1階で10月11日までまで展示（土日、祝日を除く8時30分～17時15分まで）。

優美な姿で咲き誇る満開のしだれ桜。月の光を浴びて幻想的に浮かび上がるその姿は、かつての最盛期の合戦場のしだれ桜を描いたものです。すげのでんじゅさんが自分の中のイメージを基に描いたという作品は、全部で五点。中央の作品が、クラウドファンディングの返礼品となっています。

九月十一日には岩代支所で発表会が行われ、合戦場のしだれ桜保存会の山崎会長からすげのでんじゅさんに謝意が伝えられました。

五点の作品は岩代支所一階で、十月十一日まで展示中ですので、是非、足を運んでください。

◆フクロウの募金箱◆
岩代支所にも募金箱を設置

第一回岩代地域行政委員懇談会を開催

八月二十二日（木）午後四時～岩代支所で第一回岩代地域行政委員懇談会が開催されました。

岩代地域では、これまで行政委員が一堂に会して地域における課題の共有や解決のために懇談する機会がなく、今回初めての試みとして行政委員が主催し開催の運びとなりました。

懇談会では、「今後の環境整備について」「住みやすく魅力ある町づくりのために何が必要か」「各地区の敬老事業の取り組みについて」「過疎化・少子高齢化に対応した行政区活動のあり方」をはじめ、生活で困っていること等が話し合われました。

懇談会終了後は、懇親会を開催し、盃を重ね、岩代地域の将来を話し合い、交流を深めました。

▼岩代地域の行政委員13名が参加し、活発に意見交換が行われました。今回だけでなく、第２回も開催予定です。

岩代の歴史シリーズ 一枚の写真　その①

岩代小浜の歴史と文化を護る会
副会長　大内英克

それは、今から四十六年前の昭和五十三年。

小浜中学校郷土史クラブは自転車で宮森城へ向かった。担任は安齋淳平先生（小浜出身）である。

途中「大河内宗四郎腹切石」を見学し、永禄年間の悲劇の事件を聞いた。

小浜城主大内定綱が四本松（塩松）地方を領事するに至った際の大きな出来事である。

伊達輝宗公御前清水を経て、宮森城址へ到着した。

石段を駆け上がると「矢取八幡神社」が見えてきた。

ここ宮森城は、伊達政宗の父輝宗が二本松城主畠山義継に拉致され、「栗の須の変」の発端となった場所との説明を受けた。

祖父からも聞かされていたが、戦国史に残る一大事変が起こった現地で見聞きした体感は忘れがたいものだった。

現在、地元の小、中学生の歴史探訪を引き受けているのは、この時の気付きがあったからだろうと思う。

社殿の中に一枚の古い写真が掲額されていた。「昭和十五年会津若松宮森家有志」とあった…。

それから三十七年後、その写真の子孫である「宮森家一同」と顔を合わせるなど夢にも思わなかった。

※地域の話題がありましたら、岩代地域集落支援員　電話６５－２７７７までご連絡ください。